

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。
--

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	68.5%	86.1%
将来の夢や目標を持っている。	60.2%	67.5%
自分には、よいところがあると思う	85.0%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	75.4%	84.7%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より低い結果が出ています。

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも低い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.2%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	6.8%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	23.3%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	12.3%	19.1%
「30分より少ない」	26.0%	11.3%
「全くしない」	21.9%	7.7%

家庭学習については家庭での学習時間が2時間以上と答えた生徒の割合が全国平均と比べて、低い傾向が見られる。それに比べ1時間未満の生徒が半数以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。

(2)改善に向けての取り組み

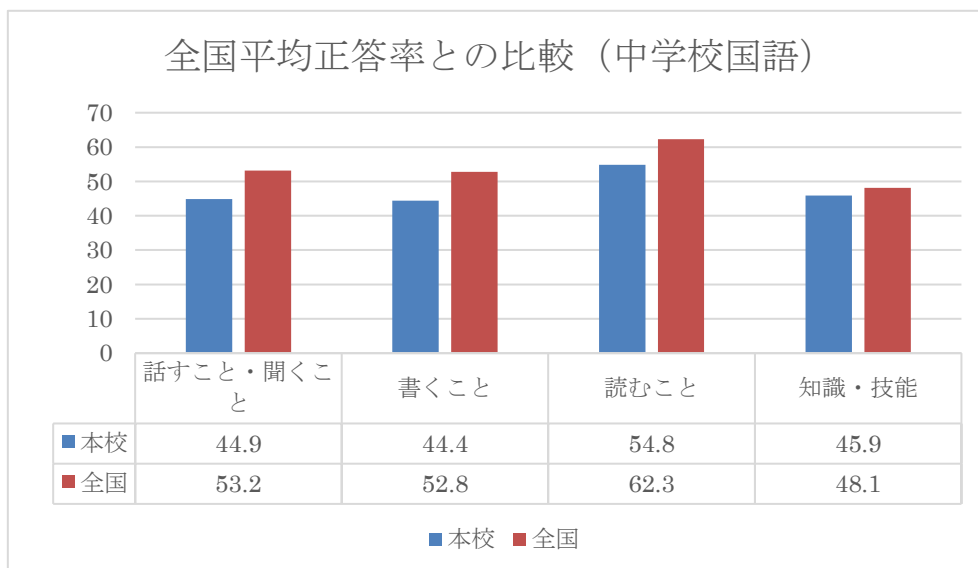
【学校では】

- 主体性を伸ばすために、3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、授業では主体的、対話的で深い学びに向かう授業改善を行っていきます。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話をとおして、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 「家庭学習の定着が全国平均と比べて、低い傾向が見られます。ご家庭の見守りと家庭学習への促しのご協力をお願いします。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

1 国語



(1) 結 果

全領域において、全国平均を下回っています。5ポイント以上下回っていたのが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」でした。

「知識・技能」については、2.2ポイントの差であり、これは誤差の範囲と言えるかもしれません。

(2) 成果と課題

本校の生徒については、全領域において、向上する可能性を秘めていると言えます。これを実現させるための、課題は、まずは読むこと（読解力）の正答率を上げていくことです。文章で書かれている内容、問われている内容等を正確に読むことで、自ずと正答率も向上するはずです。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

授業においては、文学的文章や説明的文章の教材の「読む」領域において、正確に読む力をつけられるように、語句の意味や接続の言葉、オノマトペ等の効果等細部に注意を払い「読み深める授業」を進めていきます。

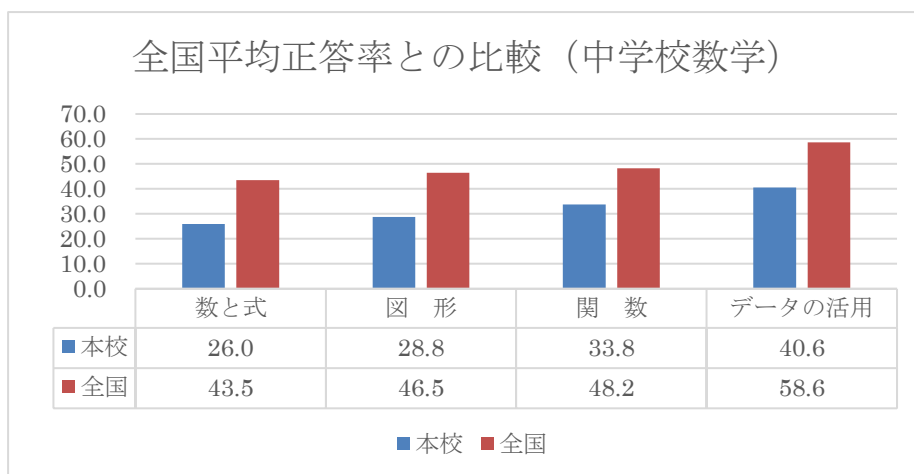
また、領域の中で、今回、一番差の開いた「話すこと・聞くこと」については、授業だけでなく、全校集会や学年集会での教師の話、朝・帰りの会での係からの連絡等も「聞く力」を伸ばす場、「話す力」を伸ばす場として生徒たちにも、意識させ、活用していきます。

【ご家庭では】

「読書は万物の特効薬」です。部活動や・習い事・塾等 放課後（下校後）も色々と忙しい毎日の中学生ですが、ご家庭での、就寝までのわずかの時間で構いません。「家庭読書の時間」を設けていただけないでしょうか。これだけでも、お子様たちの「読む力」は向上するはずです。

本校の生徒が一番、苦手としている「話す・聞く」についても、是非ともご家庭のお力を頂き、親子・兄弟等ご家族での、会話を今まで以上に、より一層深めて頂ければとお願いいたします。自分以外の人の話を聞くこと、自分の話を聞いてもらうこと、これらの経験がこの領域の向上につながると期待しています。

2 数学



（1）結 果

学習指導要領の4つの領域すべてにおいて、全国平均正答率を大きく下回る結果でした。数と式の領域では約17ポイント、図形の領域では約18ポイント、関数の領域では約14ポイント、そしてデータの活用の領域では18ポイント下回りました。

（2）成果と課題

『評価の観点』については、「思考・判断・表現」において全国平均正答率 39.1%に対し、本校 20.1%と大きく下回っています。さらに、思考力を問う設問や記述解答を求める設問に対しては、無回答な生徒の割合が多いため、県平均よりもすべての設問において下回りました。また、本校の正答数集計値の中央値は3問であり、15問中3問以下の正答率が生徒数の半分をしめています。全国の正答数集計値の中央値は7問であり、本校は数学の基礎となる知識の定着をはかることが最優先課題です。

（3）学力向上のための取り組み

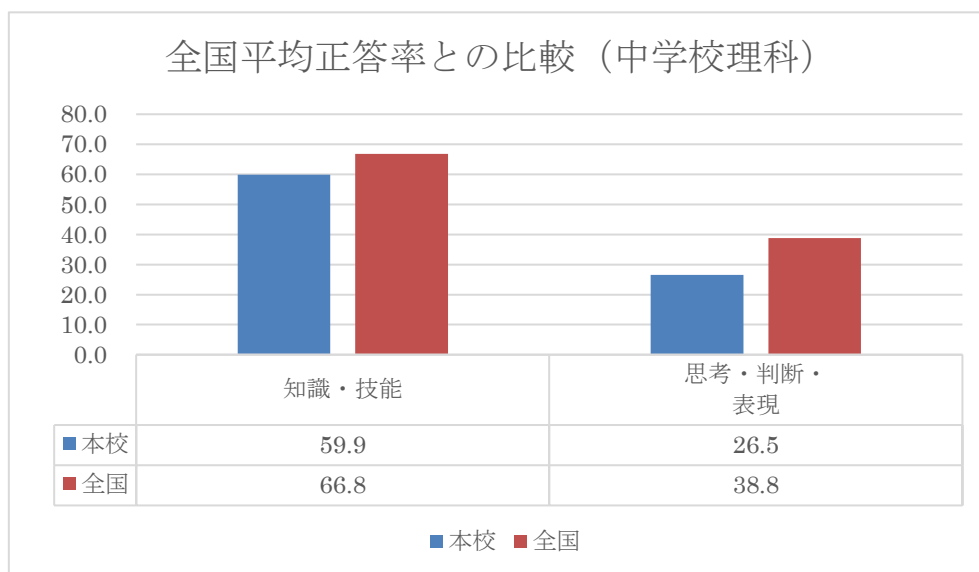
【学校では】

- 生徒一人一人の躓きに遡り、個々の「できた」を大切にし、学びを楽しむ授業を行います。
- 日々の授業でグループワークなど協同して考える活動を取り入れ、思考力を高め、問題を解決する力を育み、それらの振り返りによって記述する力を育みます。
- 希望する生徒には、個別添削課題を通して、躓きの解消をはかります。また発展問題など、難易度の高い問題に取り組むことによって応用力を伸ばします。

【ご家庭では】

- ご家庭の団らんの中で、今何を学んでいるのか話題にさせていただけたらと思います。思い出すことで記憶の定着にもつながり、気にかけていただくことで生徒自身の授業に向かう姿勢も変わりますので、日々の温かなお声がけをよろしくお願い致します。
- 学習した内容を定着させるには、家で反復して学習することが大切になります。特に数学は積み上げる学問ですので、課題や自主的な学習に前向きに取り組めるよう、励ましのお言葉をかけていただければと思います。

3 理科



(1) 結果

評価の2観点において、共に全国平均正答率を下回る結果でした。観点別としては、知識・技能の観点では約7ポイント下回り、思考・判断・表現の観点では、約12ポイント下回っています。

(2) 成果と課題

『評価の観点』については、「思考・判断・表現」において大きく下回りました。さらに、思考力を問う設問や記述式解答を求める設問に対しては、無回答な生徒の割合が多いため、正答率が県平均より下回る設問が複数見受けられました。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「めあて」や「授業の流れ」を掲示することで、見通しをもった授業を展開し、生徒が主体的に参加できたと実感できるようにします。
- 集中力の持続が難しい生徒が散見されるため、（個人・グループ・ペアなど形態も含めて）授業の展開を工夫します。抽象的なものについては、出来るだけ具体的なものを提示し説明します。
- 日々の授業で説明する活動や書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認する習慣付けを促します。
- 基礎的内容の定着のため、また、「分かった」から「出来た」につなげるため、振り返りでは、理科ノートなどの基礎的問題を活用します。

【ご家庭では】

- お子さんの課題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をお願いします。
- 理科が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな、おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。